

令和 2 年度 事業 報告 書

はじめに

乳用牛の飼養頭数は 16 年ぶりに増えた平成 30 年から 3 年連続で増加し、全国の生乳生産量も引き続き増加しましたが、乳用牛飼養戸数の減少は続き、特に都道府県での減少は引き続き深刻でした。令和 2 年 1 月に国内初感染例が確認された新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、バター・脱脂粉乳の国内生産量及び在庫量の増加など乳・乳製品の需給に直接的な影響を与え、バター・脱脂粉乳の在庫量の増加は、乳製品の輸入量に大きな影響を与えました。

TPP11、日 EU・EPA、日米貿易協定の発効に加え、RCEP 協定が署名された新たな国際環境の下で、酪農の生産基盤の強化、特に都府県の家族経営酪農の体質強化・経営安定対策とともに乳製品の品質向上、ブランド化など国産乳製品の競争力強化、輸出促進等のための幅広い施策が進められました。このような中で酪農乳業に携わる方々の様々なご要望にきめ細かくお応えできるよう、令和 2 年 3 月 18 日開催の第 23 回理事会で承認された事業計画に沿って、また、新型コロナウイルス感染予防と業務継続・サービスの品質確保を両立させるため、感染予防対策の徹底に加え、対面での実施に代える方策を工夫しつつ事業を実施しました。

創立 70 周年を迎えた乳・乳製品にこだわった試験検査機関として引き継がれ培われてきた技術やノウハウ等を最大限に活かしつつ、食品衛生法に基づく登録衛生機関、ISO/IEC17025 認定試験所として、新たな分野も含めてより一層の研鑽を積んで、信頼の確保に努めました。

乳製品をめぐる状況の変化に対応するため、業務の合理化・効率化、新たな業務への着手、試験検査・研修の実施環境の整備・改良、実態に合わせた組織体制の見直し・強化、サービスの向上等を進め、引き続き、酪農乳業界みなさまの試験検査機関としての役割を果たせるよう体質強化に努めました。

各事業の進捗状況等は、以下のとおりです。

〔公益目的事業〕

1 法令に基づく検査・認定

(1)食品衛生法に基づく試験検査

食品衛生法に基づく登録検査機関として、輸入乳製品の食品衛生関連法令に基づく試験検査を実施しました。

- ・ 輸入乳製品の自主検査（脱脂粉乳、バター、ホエイパウダー等）
89 検体 （元年度 111 検体、30 年度 111 検体、29 年度 166 検体）

(2)HACCP 支援法に関する認定

食品の製造過程の管理の高度化に関する臨時措置法（HACCP 支援法）に基づく指定認定機関として、乳業者が長期低利融資を受ける要件となる高度化計画及び高度化基盤計画の認定、情報提供、相談受付等を実施し、乳業者及び6次産業化に取り組む酪農家の HACCP 導入を支援しました。改正食品衛生法に基づく HACCP 制度化が施行されたことに伴い、乳業団体が進める小規模な事業者向け手引書の作成作業に参画しました。

農林水産物及び食品の輸出促進に関する法律（輸出新法）の HACCP 支援法みなし規定による輸出事業計画の認定プロセスについては、相談等の受け付け体制を整えました。

- ・ 高度化基盤計画の認定：0 件 （29 年度～元年度 1 件）
- ・ 相談対応：HACCP の考え方、取り組み方策等の質問、相談を受けましたが、計画認定につながる相談はありませんでした。

(3)指定乳製品等検査

食品衛生法に基づく登録検査機関として、畜産物の価格安定等に関する法律施行規則等に基づき、輸入乳製品の品質検査を実施しました。コロナ感染予防対策を徹底し、突発事態発生の場合も想定した対応を行った上で、可能な限り合理的かつ効率的にサンプリング、検査の計画を立て、依頼者の要請に的確に応えられるよう努めました。

単位：検体

種類	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
バター	2,656	3,517	2,691	1,581
脱脂粉乳	226	938	1,934	2,724
ホエイ及び調製ホエイ	340	375	587	771
デイリースプレッド	0	0	8	32
バターオイル	47	37	38	37
加糖練乳	0	0	0	0
計	3,269	4,867	5,258	5,145

2 依頼による試験・調査

(1) 依頼による食品等の理化学的、微生物学的試験

食品衛生法に基づく登録検査機関、ISO/IEC17025 認定試験所として、依頼者のご要望に的確にお応えできるよう配慮しつつ、試験を受託して実施しました。

- ・受託品目：飲用乳、アイスクリーム類、調製粉乳、発酵乳、練乳、チーズ、脱脂粉乳、飼料用粉乳、その他食品等
- ・試験項目：理化学
乳脂肪分、無脂乳固形分、たんぱく質、灰分、放射能、金属 (Na、Ca)、溶解度、スコーチドパーティクル等
微生物
細菌数、大腸菌群、耐熱性菌数、リステリア、高温菌数等
- ・検体数：2,484 検体
(元年度：3,220 検体、30年度：2,833 検体、29年度：3,649 検体)
うち、放射能検査：271 検体
(元年度：390 検体、30年度：489 検体、29年度：585 検体)

(2) 依頼による調査

① 全国飲用牛乳公正取引協議会の依頼による調査

全国飲用牛乳公正取引協議会の依頼を受け、全国飲用牛乳公正取引協議会製品等検査規程に基づき市販品成分検査と認定検査機関実務調査を実施しました。市販品成分検査（乳飲料を除く）については試験結果の判定まで実施し、定期成分検査（受託数は2の（1）の内数：154 検体）については合否判定まで実施しました。

市販品成分検査

単位：検体

種類	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
牛乳	189	198	193	226
加工乳	22	18	27	19
乳飲料	177	152	183	142
成分調整牛乳他	29	42	38	40
計	417	410	441	427

認定検査機関実務調査については、新型コロナウイルス感染予防の観点から、書面による調査にも対応しました。

- ・認定検査機関の実務調査:27施設（うち新規0施設）うち21施設は書面調査（令和元年度:30施設、30年度:29施設、29年度:30施設）

② 生乳と乳製品の安全性・信頼確保支援事業のうち

ファームメイド乳製品等の検査及び工房の環境検査事業

公益財団法人全国競馬・畜産振興会助成（平成30～令和2年度）

酪農家による6次産業化の取組が成功し酪農経営の継続・発展につながるように、HACCPに対応するために必要な微生物等の検査、工房の環境検査、正確な表示のための検査、アドバイス等を行って、乳製品の安全性・信頼の確保に資する事業を実施しました。

学識経験者等による事業推進委員会（6月開催）における具体的な計画等の検討後、チーズ、ヨーグルト、アイスクリーム、牛乳の製造に取り組む酪農家を対象に参加案内を行い、20戸の酪農家を対象に、ファームメイド乳製品等の検査（80検体）及び工房の環境検査（20戸）を実施し、結果を各酪農家へ送付しました。検査結果等を事例集として取りまとめ、協会HPに掲載しました。

衛生管理、官能検査等に関する研修会を、3月に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染予防の観点から中止し、研修会で使用する予定であった資料を参加希望者（13戸）に送付し、質問を受け付けました。

3月の事業推進委員会において、事業に参加した酪農家は6次産業化の取組をみな続けていく意向であること、6次産業化に取り組む酪農家数の目標を達成したことが高く評価されました。

③ 乳及び乳製品の試験法に関する検討

国立医薬品食品衛生研究所からの受託研究（平成30年度～令和3年度）

乳及び乳製品の成分規格等に関する省令の試験法は、一部の器具が入手困難になる等実行可能性が低下しているほか、国際的整合性が確実とは言えないため、本

研究により収集する乳及び乳製品の分析法に関する情報を踏まえつつ、国際的に整合し、かつ実行可能性を向上させた分析法を開発し、その妥当性を確認するための検討を行う研究に参画しました。

バター、バターオイルの乳脂肪分析法構築のための分析を実施し、共同試験を実施しました。また、粉乳の水分分析法構築のための分析を実施しました。

④ 規格適合検査技能向上促進対策事業

乳業工場における飲用乳の成分検査の実態調査、結果のばらつきの調査等を実施し、その原因の検討のための実地調査を行って改善案等を取りまとめた事業(平成 26～27 年度農林水産省補助事業)の成果を、飲用乳等の検査精度の向上等のために活用する可能性について引き続き検討しました。

3 研修会の開催・講師派遣

新型コロナウイルス感染予防の観点から、研修会の開催、講師派遣をいったんすべて中止した後、感染予防対策を徹底して、7月から再開しましたが、開催回数、参加者数は大幅に減少しました。

[協会主催の研修会]

生乳や乳製品の検査を行う技術者等を対象とした実技中心の研修会を計8回開催し、参加者は合計 38 名(元年度 31 名、30 年度 41 名)でした。研修生のご要望等によりの確にお応えできるよう、講義内容、資料、実習用器材等について工夫、改善を加えながら実施しました。

生乳検査技術研修会は、5回の開催を予定しましたが、1回を新型コロナウイルス感染予防の観点から中止、1回は参加希望者のキャンセルにより中止となり、計3回の開催となりました。

乳糖検査技術研修会は、2回の開催を予定しましたが、参加希望者がおられませんでした。

新たに官能評価員育成研修(基礎研修会、専門研修会)を実施しました。一般社団法人日本乳業協会により乳業者を主な対象として実施されていた研修会を引き継ぎ、乳・乳製品の官能評価員能力向上・認定事業(公益財団法人全国競馬・畜産振興会助成(令和2年～4年度))を活用して、酪農乳業全体の官能評価レベルアップを支援するために、集乳から乳製品の出荷までの各工程の官能評価担当者を対象とする研修会を実施しました。

開催実績

研修会の名称、内容等	期間・回数	参加者	
生乳検査技術研修会 実技：乳脂肪分、たんぱく質 乳固形分、比重、 体細胞数、抗生物質 講義等：生乳検査精度管理に 関する講義、認証制 度の説明	5月11日～13日	0人(開催中止)	
	7月13日～15日	2人	
	10月 5日～ 7日	3人	
	1月20日～22日	0人(参加キャンセル)	
	2月24日～26日	1人	
	計3回 〔 元年度 5回 〕 〔 30年度 5回 〕	計6人 〔 元年度 29人 〕 〔 30年度 39人 〕	
乳糖検査技術研修会 実技：レイン・エイノン法	7月 6日～ 7日	0人	
	11月19日～20日	0人	
	計0回 〔 元年度1回 〕 〔 30年度2回 〕	計0人 〔 元年度2人 〕 〔 30年度2人 〕	
官能評価員育成研修会	基礎	9月 1日	7人
		10月13日	10人
		11月13日	5人
		12月17日	6人
	専門	3月17日～18日	4人
	計5回	計32人	

【乳業関係団体の依頼による研修会】

全国飲用牛乳公正取引協議会、一般社団法人日本アイスクリーム協会の依頼を受け、検査技術研修会 7 回(元年度 11 回、30 年度 10 回)、アイスクリーム検査技術研修会 1 回(元年度 2 回、30 年度 2 回)の合計 8 回実施し、参加者は合計 15 名(元年度 126 名、30 年度 125 名)でした。

開催実績:

研修会の名称、内容等	期間・回数	参加者
全国飲用牛乳公正取引協議会 検査技術研修会 ・ A コース 実技：乳脂肪分、たんぱく質、	6月15日～19日 合併コース	0人 (開催中止)
	6月22日～26日 合併コース	0人 (開催中止)

乳固形分（全固形分） 比重、滴定酸度 講義等：精度管理に関する講義 ・Cコース 実技：細菌数、大腸菌群、 低温菌数、 耐熱性菌数、体細胞数、 抗生物質 講義等：精度管理に関する講義 ・合併コース 実技：A、Cコースの合併	7月 1日～ 3日	
	A コース	2人
	C コース	0人
	7月27日～31日	0人
	合併コース	(参加キャンセル)
	9月 2日～ 4日	
	A コース	0人
	C コース	1人
	9月23日～25日	
	A コース	1人
	C コース	0人
9月28日～10月2日		
合併コース	1人	
10月19日～23日		
合併コース	3人	
10月26日～30日		
合併コース	3人	
11月30日～12月4日		
合併コース	1人	
1月25日～29日		
合併コース	0人 (参加キャンセル)	
計7回 〔 元年度 11回 30年度 10回 〕	計12人 〔 元年度 95人 30年度 92人 〕	
一般社団法人日本アイスクリーム協会 アイスクリーム検査技術研修会 ・Aコース 実技：乳脂肪分、たんぱく質、 全固形分、単位重量 当たりの容量比 ・Cコース 実技：細菌数、大腸菌群 黄色ブドウ球菌、抗生物質	12月14日～16日	
	A コース	1人
	C コース	2人
	2月 8日～10日	(開催中止)
	A コース	0人
C コース	0人	
計1回 〔 元年度 2回 30年度 2回 〕	計3人 〔 元年度 15人 30年度 17人 〕	

【講師派遣】

乳業団体等の依頼を受け、のべ4名(元年度 29名、30年度 33名)の講師等を派遣しました。

派遣実績

研修会の主催者、内容等	期間	場所
一般社団法人日本乳業協会・東京飲用牛乳協会 牛乳衛生講習会 「衛生管理の基礎・管理ポイント、改善事例等」	9月15日	東京都
一般財団法人蔵王酪農センター 国産ナチュラルチーズ製造技術(専門・基礎)研修会 「安全なチーズを生産していただくために」	9月14日 11月17日 1月25日	宮城県 蔵王町

全国農協乳業協会の依頼を受け、「乳業製造技術通信教育」の「牛乳・乳製品検査法」の講師を担当し、テキストの改訂、レポートの課題作成、添削、採点等を行いました。

4 研究・技術・調査情報の提供等

(1)乳業技術誌の刊行

Vol.70 2020「創立 70 周年記念号」の編集・刊行について、編集委員会(委員長 松田 幹 福島大学教授)における検討を経て、特別寄稿の執筆を依頼しました。刊行後、関係行政機関、酪農乳業団体・企業、関係大学他約 200 施設に配布します。

(2)全国集乳路線別生乳成分調査

全国が生乳成分(乳脂肪分(F)、無脂乳固形分(SNF))の調査を昭和 50 年以降継続して実施しており、乳業各社のご協力を得て「全国集乳路線別生乳成分調査第 46 報」を取りまとめ、協会HPに公表しました。

令和 2 年 1 月～12 月の調査延べ路線数は、工場到着ローリー乳で 7,792(令和元年 7,933、平成 30 年 7,876)、全生乳生産量(1日あたり)に対する調査対象乳量のカバー率は 41.0%(令和元年 41.6%、平成 30 年 41.4%)でした。

協力会社名 (50 音順)

協同乳業株式会社

グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社

信州ミルクランド株式会社

北陸酪農業協同組合連合会
 株式会社明治
 森永乳業株式会社
 雪印メグミルク株式会社
 よつ葉乳業株式会社

F, SNFの地域別平均値 単位:%

地域	F	SNF	地域	F	SNF	
北海道	3.940	8.803	東海	3.834	8.765	
東北	3.903	8.758	近畿	3.870	8.808	
関東	3.870	8.781	中国	3.928	8.838	
北陸	3.872	8.808	四国	3.890	8.774	
東山	3.812	8.705	九州	3.926	8.800	
			全国平均	3.930	8.800	
			〔	令和元年	3.927	8.791
				平成30年	3.914	8.790

(3)技術関連情報の提供

乳・乳製品の試験検査の手技・手法、品質管理や表示のための試験法、測定値の活用法等に関する乳業者、公的機関の試験検査担当者、6次産業化に取り組む酪農家、流通業者等からの幅広い問い合わせに対応しました。

協会HPに、生乳検査精度管理に関する情報、試験検査に関連する情報、オンラインで実施した講演の動画等を掲載しました。

(4)関係機関、関係団体との連携

関係機関、関係団体の会議、委員会等に参加(リモート、書面を含む。)し、情報の収集や意見交換等を行いました。

団 体 等	会合名、内容等
全国飲用牛乳公正取引協議会	常任委員会、専門部会、専門小委員会
(一社) 日本乳業協会	定時社員総会
(一社) 日本乳容器・機器協会	定時総会、理事会
(一社) 食品衛生登録検査機関協会	通常総会
チーズ公正取引協議会	総会、常任委員会、技術小委員会

(公社) 畜産技術協会	総会、理事会、監事監査
(公社) 中央畜産会	定時総会
東京飲用牛乳協会	品質改善委員会
関東生乳販売農業協同組合連合会	生乳品質改善共励会 (代表理事賞)
(一財) 蔵王酪農センター	事業推進委員会
全国農協乳業協会	「乳業製造技術者通信教育」講師検討会議
(一社) Jミルク	安全性確保品質向上委員会

(5)研究成果の発表

乳・乳製品の検査技術等に関する共同研究の結果が専門誌に掲載されました(「チーズの二重染色試験法における代替試薬の検討」 畜産技術 2020年12月号)。

5 生乳検査精度管理

生乳検査精度を高い水準で維持することの重要性に鑑み、引き続き、測定機器校正のための試料乳(乳成分用、体細胞数用)の配布、生乳検査外部精度管理調査(技能試験)及び生乳検査精度管理認証制度の業務を実施しました。

(1)測定機器校正のための試料乳の配布

乳成分用試料乳配布数 2,756 セット

(元年度 2,774 セット、30年度 2,752 セット、29年度 2,753 セット)

体細胞数用試料乳配布数 406 セット

(元年度 369 セット、30年度 358 セット、29年度 370 セット)

配布に併せ、キャリブレーション参考資料を協会 HP に(毎月)掲載しました。

(2)生乳検査外部精度管理調査

参加施設:109 施設 (元年度:110 施設、30年度:109 施設、29年度:111 施設)

参加施設名を協会 HP に掲載して公表するとともに、「参加証」を引き続き発行しました。

(3)生乳検査精度管理認証制度

平成 30 年に一般社団法人 Jミルクから認証制度全体を引き継ぎ、生乳と乳製品の安全性・信頼確保支援事業の生乳検査精度管理認証制度事業(全国競馬・畜産振興会助成(平成 30～令和 2 年度))を活用して次のように実施しました。

- ・ 認証申請施設の書類調査・現地調査を、新規1、更新8施設について実施し、生乳検査精度管理認証特別委員会(9月、3月)における審議、答申を受けて、10月

1日付けで6施設を認証(3施設は次年度の認証)。

- ・ 生乳検査精度管理委員会を書面開催(3月)し、認証規程、ガイドラインの内容等の確認、見直しについて審議。
- ・ 生乳検査技術者連絡会をオンライン開催(2月)し、遊離脂肪酸関連の2題の講演、意見交換を実施。
- ・ 信頼性確保部門責任者研修会(3月)をオンライン開催し、認証制度の運用関連の2題の講演を実施。

6 国際酪農連盟日本国内委員会

微生物衛生専門部会(9月)、添加物・汚染物質専門部会/理化学分析専門部会(11月、2月)、食品規格専門部会・コーデックス乳・乳製品部会(10月、3月)にオンラインで参画しました。

理化学分析専門部会/添加物汚染部会で、当協会が参加した IDF 分析法共同研究の概要を報告しました。

〔 収益事業等 〕

所有する土地建物の貸借業務を民間事業者に委託して実施し、計画どおりの運用益が得られ、公益目的事業に充当しました。

〔 報告事項 〕

1. 庶務事項

令和 2 年 4 月 3 日	令和元年度HACCP手法支援法指定認定機関高度化計画認定状況等報告書提出(厚生労働省・農林水産省)
令和 2 年 4 月 3 日	令和2年度日本中央競馬会畜産振興事業実施計画の承認申請書提出(公益財団法人全国競馬・畜産振興会)
令和 2 年 4 月 17 日 ～ 21 日	公認会計士 指導・監査
令和 2 年 4 月 27 日	令和元年度日本中央競馬会畜産振興事業実績報告書提出(公益財団法人全国競馬・畜産振興会)
令和 2 年 5 月 18 日	監事監査
令和 2 年 5 月 21 日	ISO認定試験所 更新 (公益財団法人日本適合性認定協会)
令和 2 年 5 月 25 日	第24回理事会
令和 2 年 5 月 26 日	消費税申告(麴町税務署)
令和 2 年 5 月 29 日	消費税納付(麴町税務署) 法人税等納付(麴町税務署他)
令和 2 年 6 月 10 日	第13回評議員会
令和 2 年 6 月 16 日	第25回理事会
令和 2 年 6 月 25 日	法人税等確定申告(麴町税務署他)
令和 2 年 6 月 29 日	令和元年度HACCP手法支援法指定認定機関事業報告書及び収支決算書提出(厚生労働省・農林水産省)
令和 2 年 6 月 29 日	令和元年度事業報告書等に係る定期書類提出 (内閣府公益認定等委員会)
令和 2 年 7 月 1 日	社会保険算定基礎届完了
令和 2 年 7 月 10 日	労働保険料確定申告書提出(東京労働基準局)
令和 2 年 8 月 16 日	協会創立70周年
令和 2 年 10 月 28 日	第26回理事会
令和 2 年 11 月 9 日	食品衛生法登録検査機関の定期立入検査 (厚生労働省関東信越厚生局)
令和 2 年 11 月 30 日	第14回評議員会
令和 2 年 12 月 16 日	令和3年度日本中央競馬会畜産振興事業(新規事業)応募書提出(公益財団法人全国競馬・畜産振興会)
令和 3 年 1 月 13 日	償却資産申告書提出(千代田都税事務所)
令和 3 年 1 月 29 日	令和3年度日本中央競馬会畜産振興事業実施計画の承認申請書提出(公益財団法人全国競馬・畜産振興会)
令和 3 年 3 月 16 日	令和3年度HACCP手法支援法指定認定機関事業計画書及び収支予算書提出(厚生労働省・農林水産省)
令和 3 年 3 月 16 日	第27回理事会
令和 3 年 3 月 29 日	令和3年度事業計画書等に係る定期書類提出 (内閣府公益認定等委員会)
令和 3 年 3 月 31 日	事業年度終了

2. 会 議

第24回 理事会(令和2年5月25日)

- 1) 令和元年度事業報告及び計算書類等の承認について
- 2) 評議員会の日時、場所及び付議すべき事項の決定について

第13回 評議員会(令和2年6月10日)

- 1) 令和元年度事業報告及び計算書類等の承認について
- 2) 規程を変更する件
- 3) 理事の選任について
- 4) 令和2年度事業計画及び収支予算書等の報告

第25回 理事会(令和2年6月16日)

- 1) 役付き理事の互選について

第26回 理事会(令和2年10月28日)

- 1) 評議員会の日時、場所及び付議すべき事項の決定について
- 2) 事業の執行状況報告

第14回 評議員会(令和2年11月30日)

- 1) 評議員及び理事の選任について

第27回 理事会(令和3年3月16日)

- 1) 令和3年度事業計画及び収支予算書等の承認について
- 2) 特定費用準備資金取崩しの件
- 3) 事業の執行状況報告

3. 役 員

令和2年6月10日

下記の役員の任期満了に関し、第13回評議員会で理事1名を選任。

退任 理 事 平松 優

就任 理 事 辻山 弥生

令和2年6月16日

下記の役員に関し、第25回理事会で業務執行理事1名を選定。

業務執行理事 辻山 弥生

令和2年11月30日

下記の役員に関し、第14回評議員会で理事1名を選任。

就任 理 事 佐藤 雅幸

令和3年3月31日現在

代表理事 栗本 まさ子

業務執行理事 辻山 弥生

理 事 阿久澤 良造、安部 俊朗、海野 研一、草野 茂実、
小久保 彌太郎、佐藤 雅幸、城端 克行、増田 哲也、
松尾 昌一、松田 幹

監 事 佐藤 靖、保井 久子

4. 評 議 員

令和2年11月30日

下記の評議員辞任に関し、第14回評議員会で評議員1名を選任。

辞任 評議員 岡田 臣弘

就任 評議員 坂口 光一

令和3年3月31日現在

五十君 静信、浦島 匡、小菅 英夫、後藤 正純、齋藤 忠夫、
酒井 健夫、坂口 光一、迫田 潔、島崎 敬一、清水 誠、
鈴木 千セ、西尾 啓治、畑江 敬子、前田 浩史、松田 克也、
三浦 晃一、南 俊作、宮原 道夫

5. 職員等の異動

期首人員	23 名
採用者	0 名
退職者	2 名
期末人員	21 名

令和2年度事業報告 附属明細書

令和2年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和3年5月

公益財団法人日本乳業技術協会